

第2章

玉名市の 現状からみた課題

第2章 玉名市の現状からみた課題

1. 人口動向

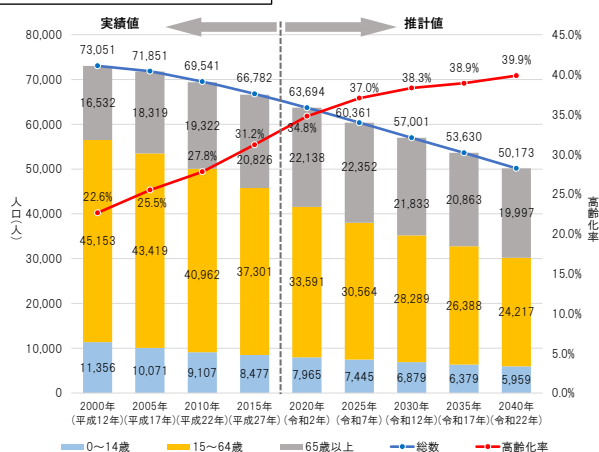
(1) 玉名市全体の人口動向

玉名市の人口は2015年（平成27年）時点で66,782人となっています。

国立社会保障・人口問題研究所の人口推計によると2040年（令和22年）の総人口は50,173人になると見込まれており、2000年（平成12年）の総人口の約70%となる見込みです。

高齢化率については右肩上がりで、2000年（平成12年）時点の高齢化率は22.6%でしたが2015年（平成27年）は31.2%に増加しています。将来的にも同様に、2040年（令和22年）には、39.9%になることが見込まれています。

玉名市の人口動向



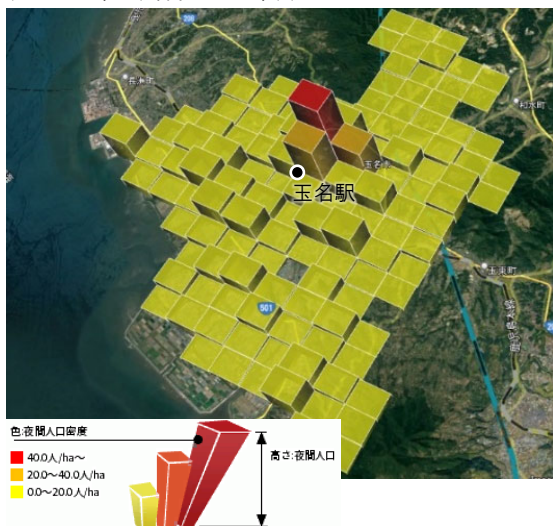
※出典元：国勢調査（実績値）
国立社会保障・人口問題研究所（推計値）
※合計値には年齢不詳を含む

(2) 500mメッシュ単位での人口動向

1970年（昭和45年）時点と2015年（平成27年）時点の500mメッシュ単位での人口動向を比較すると、全体的に人口の分布が拡大している一方で、各メッシュにおける人口は減少している傾向にあります。

500mメッシュ単位での人口動向（過去からの推移）

(1970年（昭和45年）)



(2015年（平成27年）)



※出典元：都市構造可視化計画

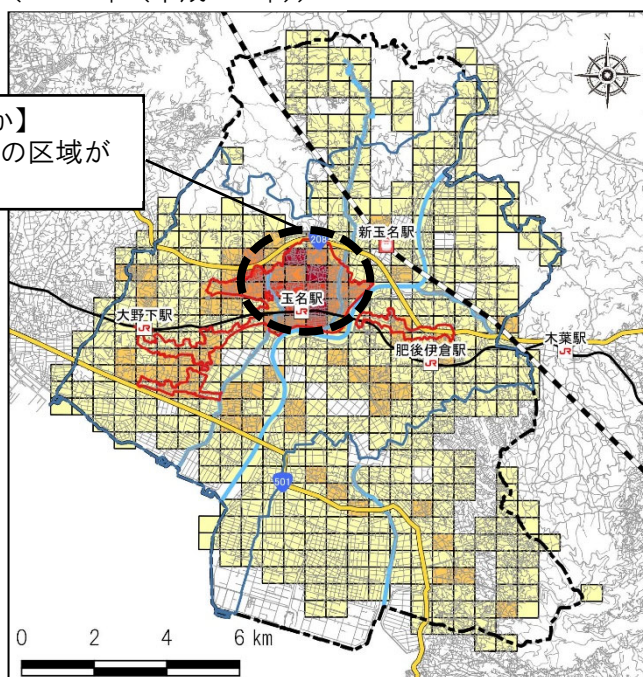
2015 年（平成 27 年）時点の 500m メッシュ単位での人口動向を見ると、玉名駅周辺のまちなか（玉名駅から高瀬にかけての範囲）の人口密度が周辺と比較して高く、人口密度 30 人/ha 以上の区域が集積しています。

2040 年（令和 22 年）時点の 500m メッシュ単位での人口動向を見ると、2015 年（平成 27 年）時点と比較して人口密度が 10 人/ha 以上となっている箇所が減少しています。

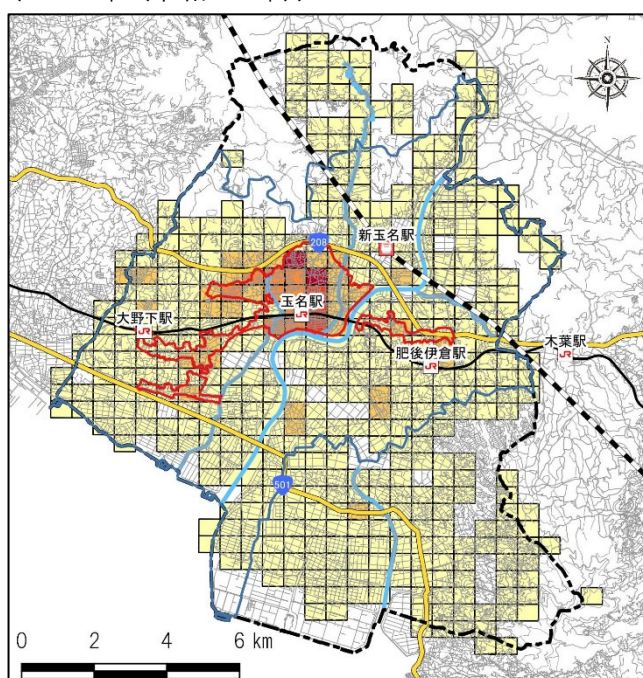
500m メッシュ単位での人口動向（将来推計）

（2015 年（平成 27 年））

【玉名駅周辺のまちなか】
人口密度 30 人/ha 以上の区域が
集積している



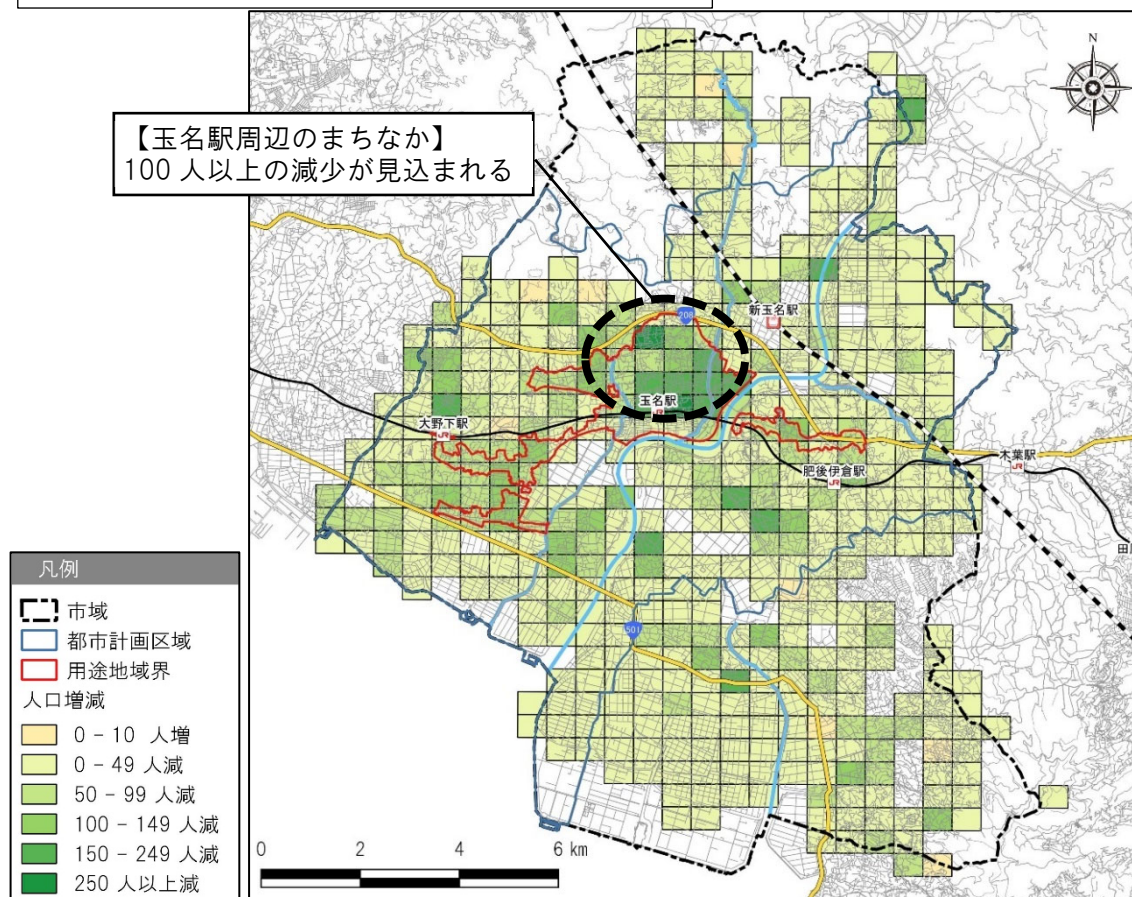
（2040 年（令和 22 年））



※出典元：国土数値情報をもとに作成

2015 年（平成 27 年）～2040 年（令和 22 年）の 500mメッシュ単位での人口増減をみると、人口減少が顕著な箇所としては玉名駅周辺のまちなかにおいて 100 人以上の減少が見込まれる区域があります。

人口増減の状況
(2015 年（平成 27 年）～2040 年（令和 22 年）)



※出典元：国勢調査（2015 年（平成 27 年））、国立社会保障・人口問題研究所での推計値をもとに作成

人口動向から見た課題点

【玉名駅周辺のまちなかでの人口集積が必要】

玉名市の人口は減少傾向であり、今後も人口が減少する見込みです。人口減少により空き家・空き店舗・空き地が発生し、人口の低密度化が懸念されます。

500mメッシュごとの人口増減をみると玉名駅周辺のまちなかで特に顕著な人口減少が見込まれる区域が広がっています。

玉名駅周辺のまちなかは、都市計画マスタープランでは中心拠点及び交通拠点としての位置づけがありますが、拠点エリアの人口減少は周辺エリアの求心力低下だけではなく、市全体の魅力低下につながる恐れもあります。

そのため、玉名駅周辺などといった人口増加を目指すべき区域に人口集積を図ることで、メリハリのある都市構造とすることが望めます。

(3) 年齢別純移動数の状況

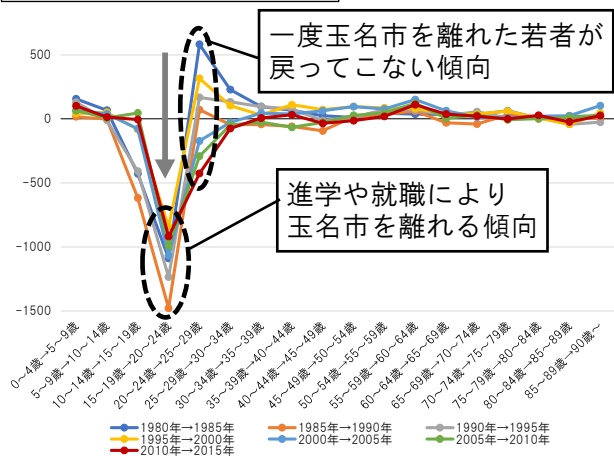
年齢階級別の純移動数の状況を見ると、15～19歳が20～24歳になる際の転出が非常に多いため、進学や就職による流出が多い傾向にあります。

一旦玉名市を離れた若者がその後戻ってこない傾向が年々顕著になっています。

また、2019年（令和元年）時点の転入超過状況を見た場合、宇土市からの転入超過が特に多い状況となっています。主な要因としては宇土

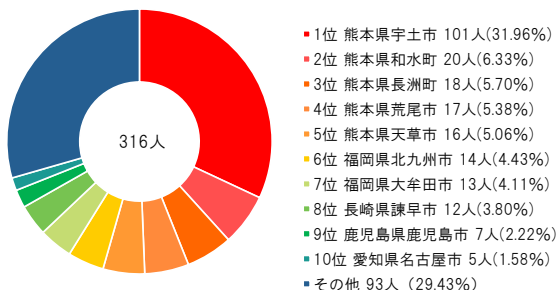
市で外国人労働者が農業研修を受けた後、玉名市に転入していることが想定されます。転出超過状況を見た場合、隣接する熊本市のほか、福岡市や菊陽町、合志市が上位に挙がっており、これらの3市1町で全体の5割を占めていることから、近隣の大都市圏に通勤するために玉名市を離れているものと想定されます。

年齢別純移動数の状況

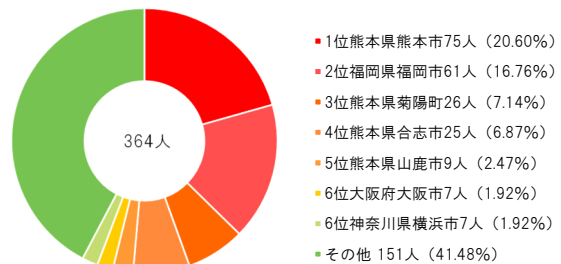


転入転出の状況（2019年（令和元年））

（転入超過）



（転出超過）



※出典元：地域経済分析システム (RESAS)

人口動向から見た課題点

【若者世代が離れないようなまちづくりが必要】

玉名市全体の社会増減状況を見ると、進学や就職を理由とした転出超過が特に多く、その後玉名市に戻ってこない傾向が年々強くなっています。

若者世代の流出傾向が強くなると、地域コミュニティの衰退や地域活力の低下が懸念されます。

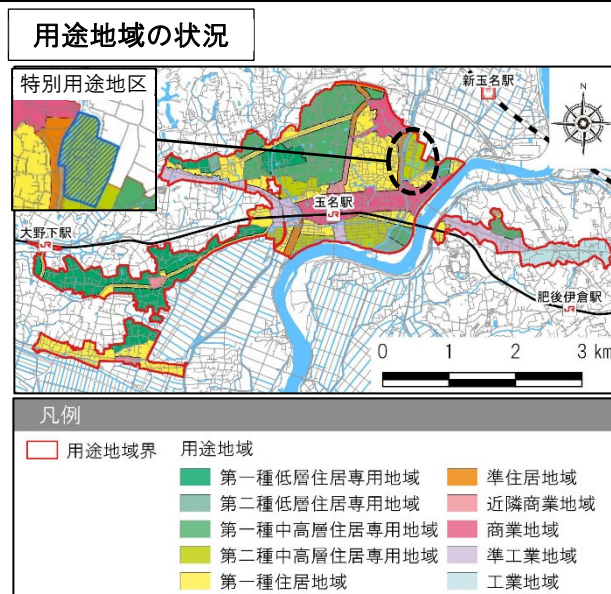
若者世代が玉名市を離れないようにするためには、玉名駅周辺やまちなかの魅力向上や新玉名駅周辺の新たなまちづくりなどによって、若者世代が魅力的と感じる拠点の形成が必要です。

2. 土地利用の状況

(1) 用途地域の状況

用途地域の指定状況を見ると、玉名駅の北側に広がっており、国道や鉄道路線付近にも広がっています。

また、玉名市役所の周辺は特別用途地区に指定されており、市民会館や行政関連施設の立地を誘導し、行政サービスと文化の機能に特化した土地利用の推進を図っています。

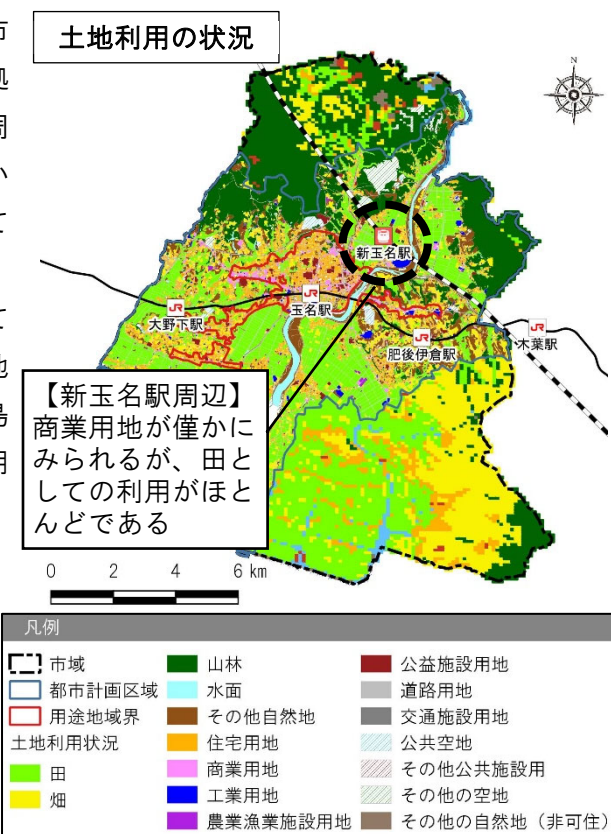


※出典元：都市計画基礎調査（2016年（平成28年））

(2) 土地利用状況

市内の土地利用状況を見ると、都市計画マスタープランにおいて交通拠点に位置づけられている新玉名駅周辺は駅直近エリアで商業用地が僅かにみられるものの、その他は田としての利用がほとんどです。

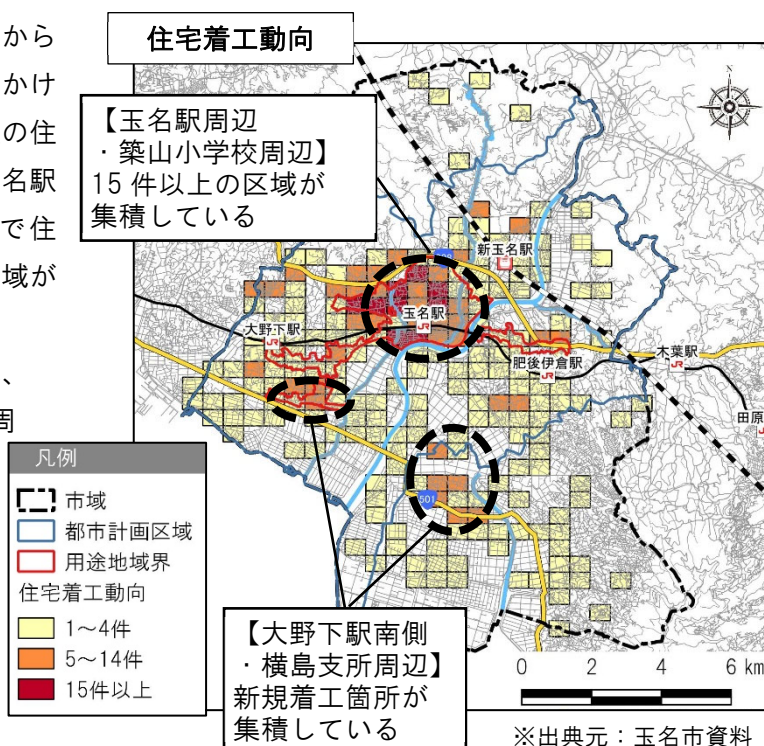
市域の北側の三ツ川は山林としての利用が多く、横島地域は田、天水地域は畑としての利用が多いです。横島支所や天水支所周辺において建物用地が集積しています。



※出典元：都市計画基礎調査（2016年（平成28年））、国土数値情報（2016年（平成28年））

2016年（平成28年）から2020年（令和2年）にかけての500mメッシュ単位の住宅着工動向をみると、玉名駅周辺や築山小学校周辺で住宅着工が15件以上の区域が集積しています。

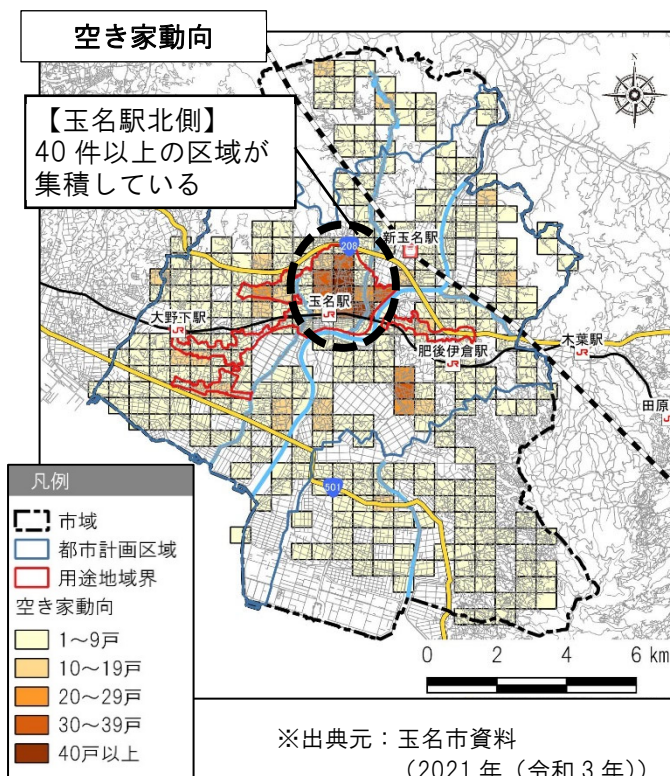
用途地域外においては、大野下駅南側、横島支所周辺において住宅の新規着工箇所が集積しています。



2021年（令和3年）時点での500mメッシュ単位の市内の空き家の状況をみると、玉名駅北側や伊倉小学校周辺において特に空き家が集積しています。

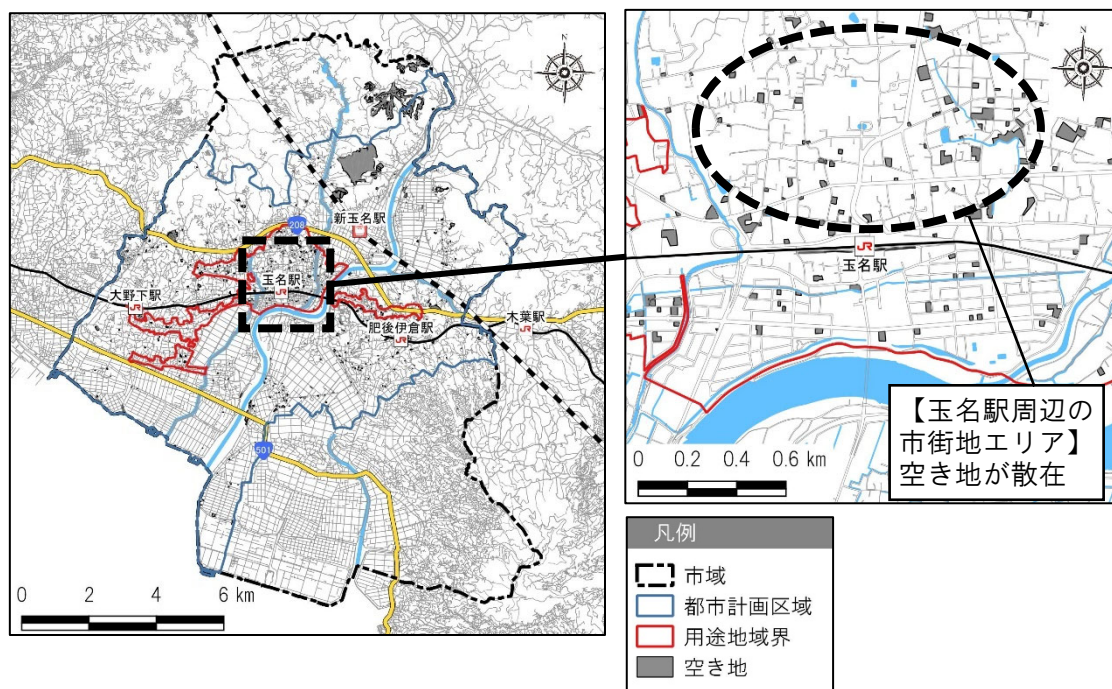
玉名駅北側は40戸以上の区域が集積しています。

今後人口減少が進むことによって、玉名駅周辺は特に空き家が増加することが見込まれます。



空き地（土地利用状況における「その他の空き地」）の状況を見ると、玉名駅周辺の市街地エリアにおいて散在している状況です。

空き地分布状況



※出典元：都市計画基礎調査（2016年（平成28年））

土地利用動向から見た課題点

【新玉名駅周辺の有効な土地利用による拠点性向上が必要】

都市計画マスタープランで交通拠点に位置づけられている新玉名駅周辺は田畑等が広がっており、新幹線駅直近というポテンシャルを活かしきれていない状況です。新たにできた市の玄関口として魅力向上を図るために、来訪者を受け入れることのできるような都市機能の集積が望まれます。

【玉名駅周辺のまちなかでの空き家活用による人口誘導が必要】

玉名駅周辺においては、将来的に低密度化や空き家の増加が見込まれています。玉名駅周辺のまちなかで人口の低密度化や空き家の増加が進むと、周辺エリアの住環境悪化だけでなく、人口減少による施設閉店や撤退の原因となり、市全体の魅力低下につながる恐れがあります。

そのため、玉名駅周辺のまちなかに多く立地している空き家を活用しながら人口誘導を図ることが必要です。

3. 防災上の安全性

(1) 災害リスクの指摘がされているエリアの状況

① 浸水想定区域（計画規模） ※毎年 1/10～1/100 の確率で発生すると想定される大雨

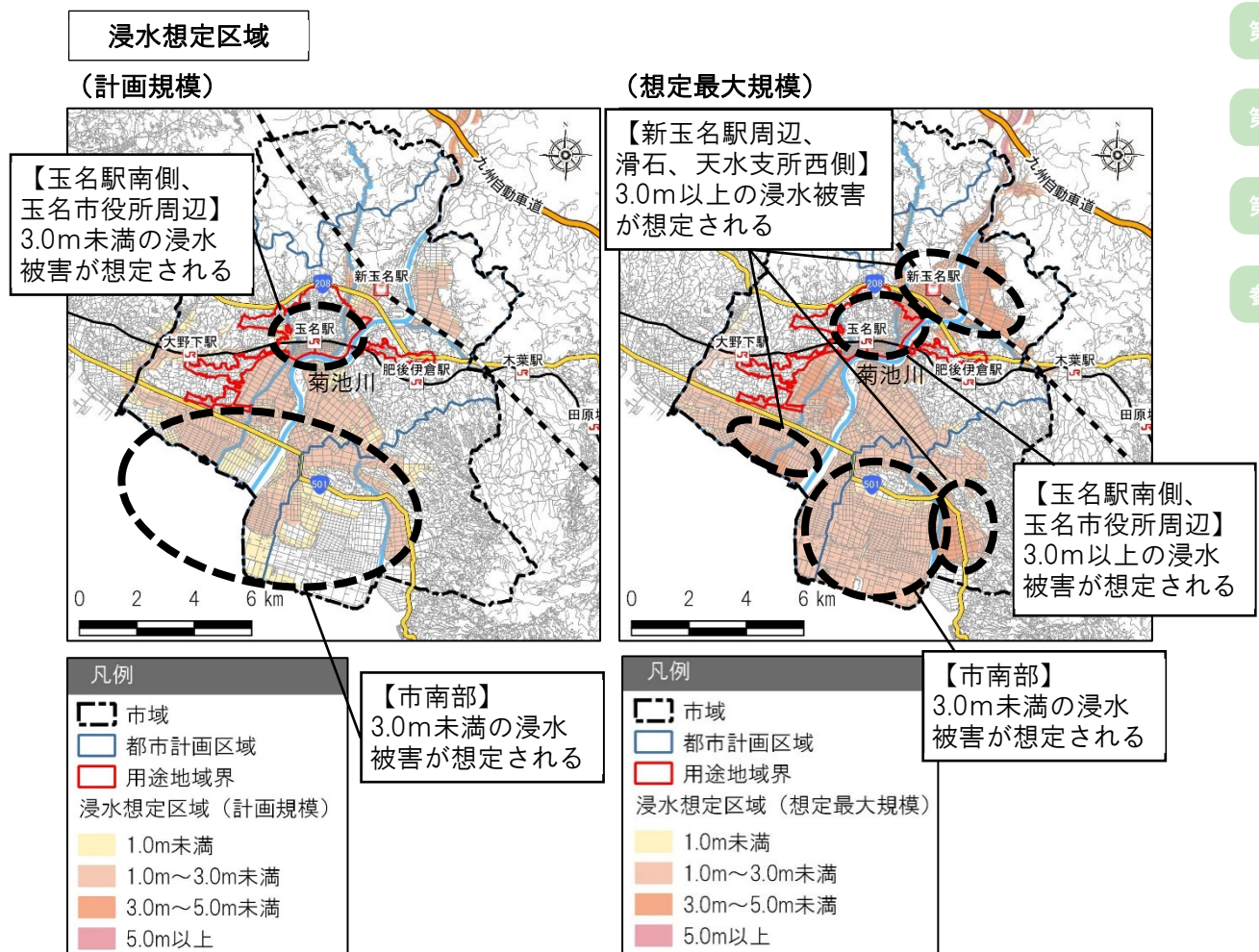
計画規模の洪水が発生した際においては、市南部の平地となっている箇所です。3.0m 未満の浸水被害が想定されています。

市街地エリアでは玉名駅南側と玉名市役所周辺でそれぞれ 3.0m 未満の浸水被害が想定されています。

② 浸水想定区域（想定最大規模） ※想定しうる最大規模の大雨

想定最大規模の洪水が発生した際においては、市南部の平地となっている箇所の多くで 3.0m 未満の浸水被害が想定されています。また、新玉名駅周辺や滑石、天水支所西側では 3.0m 以上の浸水被害が想定されています。

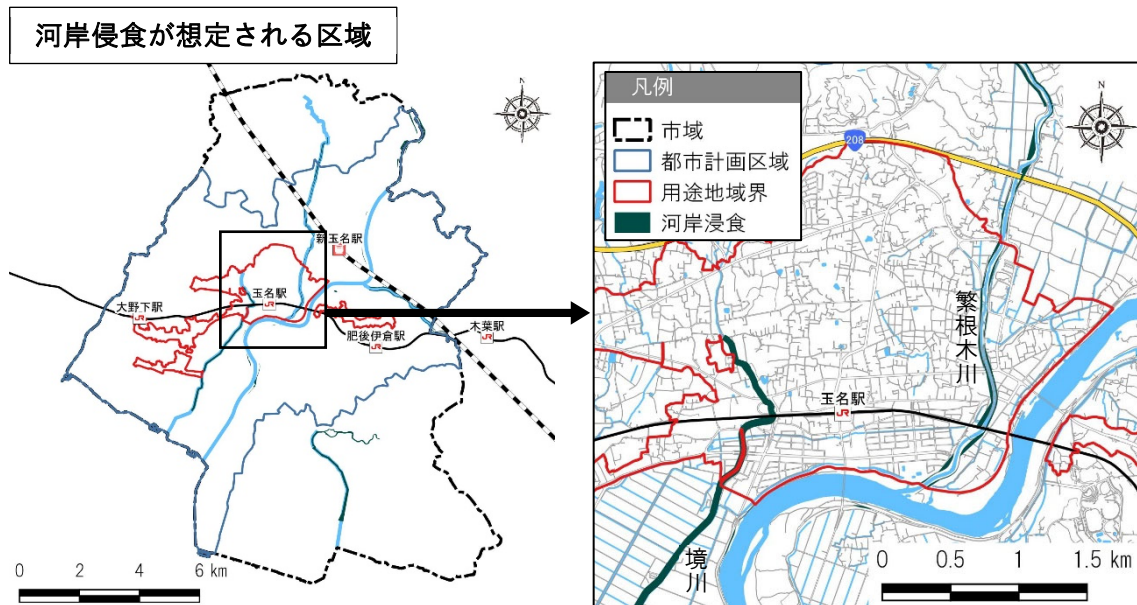
市街地エリアでは玉名駅南側や玉名市役所東側、玉名市役所南側においてそれぞれ 3.0m 以上の浸水被害が想定されています。



※出典元：国土交通省菊池川水系浸水想定区域図（2017 年（平成 29 年））、
熊本県浸水想定区域図（2020 年（令和 2 年））

③ 河岸侵食が想定される区域

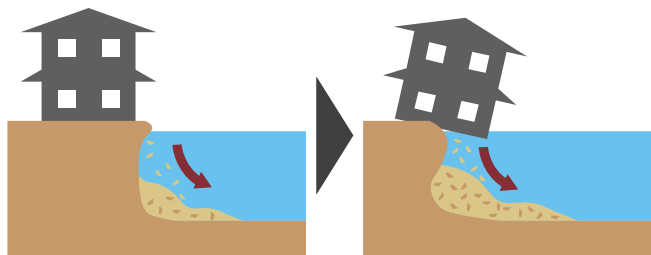
市内の河岸侵食が想定される区域をみると、主に境川や繁根木川周辺に河岸侵食が想定される区域が広がっています。



※出典元：国土交通省菊池川水系浸水想定区域図（2017年（平成29年））、
熊本県浸水想定区域図（2020年（令和2年））

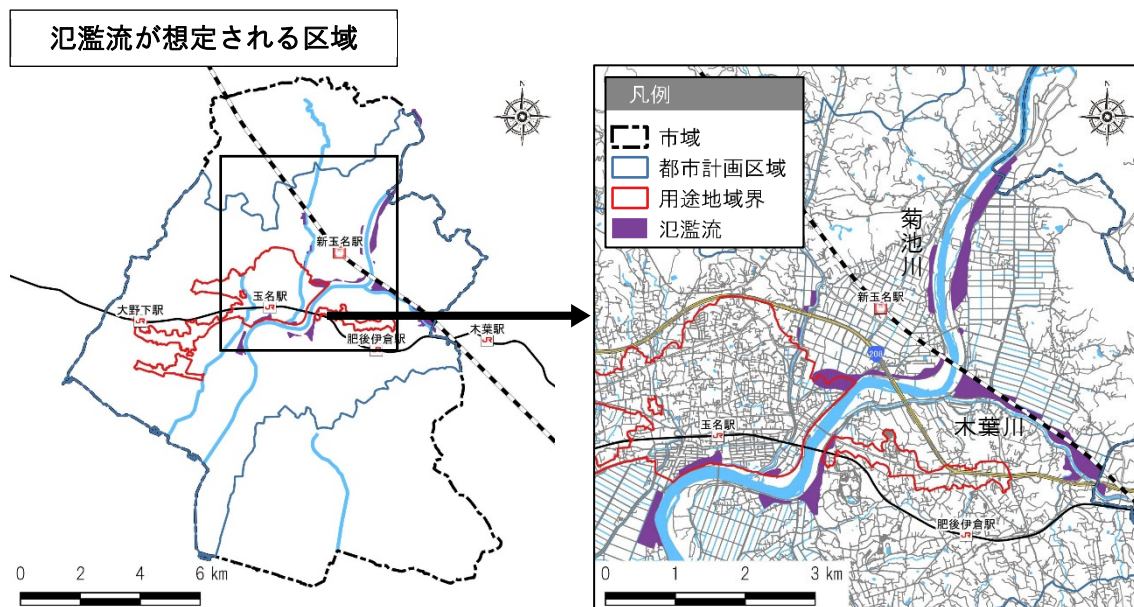
※河岸侵食想定区域とは

激しい川の流れにより、堤防や家屋の基礎を支える地盤が削られ、家屋が流失・倒壊する可能性のある区域



④ 氾濫流が想定される区域

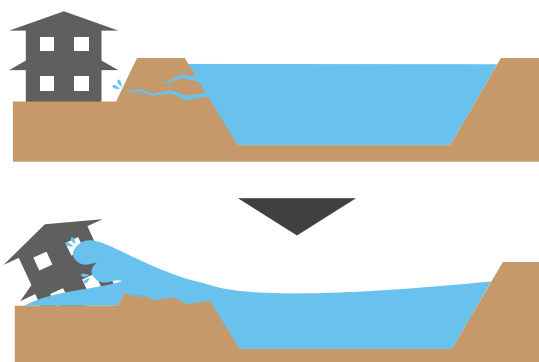
市内の氾濫流が想定される区域をみると、主に菊池川や木葉川周辺に氾濫流が想定される区域が広がっています。



※出典元：国土交通省菊池川水系浸水想定区域図（2017年（平成29年））、
熊本県浸水想定区域図（2020年（令和2年））

※氾濫流想定区域とは

堤防が決壊し、河川から流れ込む水の力によって、木造家屋が倒壊、流失する可能性のある区域

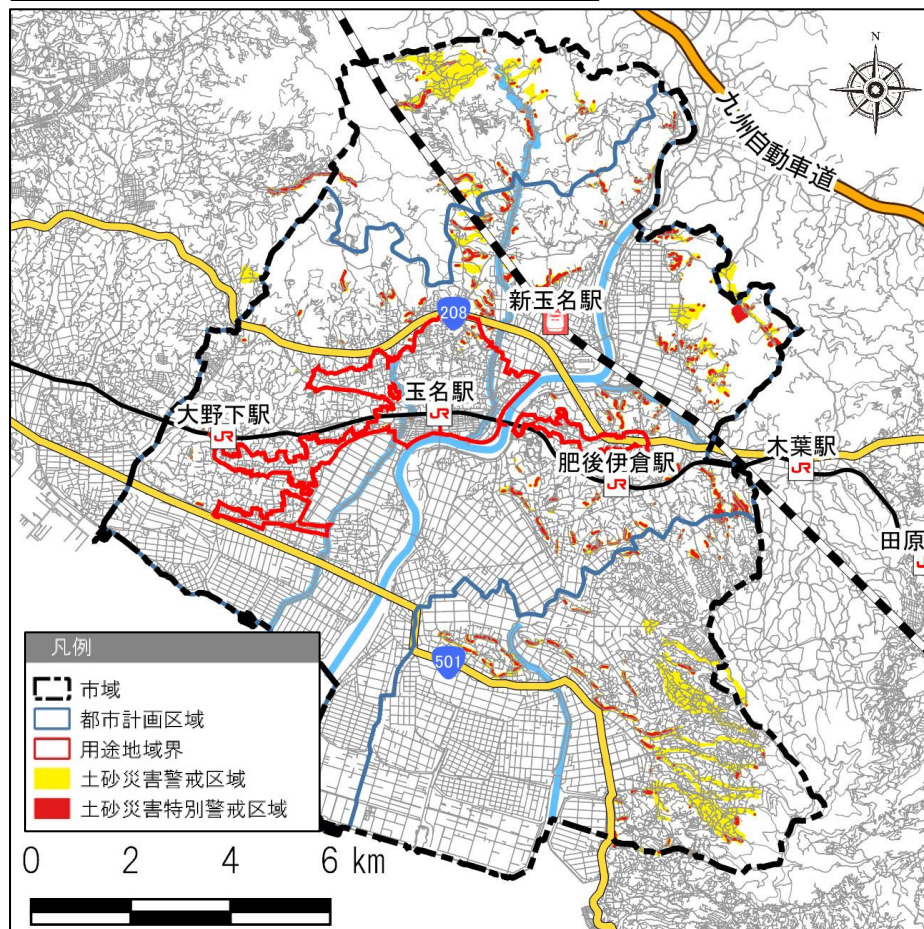


⑤ 土砂災害警戒区域・土砂災害特別警戒区域

市内の土砂災害警戒区域や土砂災害特別警戒区域をみると、主に用途地域縁辺部から他市町との境界までの区域に指定がされています。

用途地域内において土砂災害警戒区域や土砂災害特別警戒区域がいくつか指定されている状況です。

土砂災害警戒区域・土砂災害特別警戒区域



※出典元：熊本県土砂災害警戒区域、特別警戒区域マップ（2021年（令和3年））

(2) 避難場所の状況

市内の避難所としては、小中学校等の公共施設が指定されていますが、浸水想定区域内に含まれている玉名駅南側においては、避難所の500m圏域（高齢者が休憩をせずに歩ける距離（都市構造の評価に関するハンドブックに記載されている高齢者徒歩圏））に含まれていません。玉名駅南側においては1.0m以上の浸水が想定される区域が広がっていますが、最も近い避難所にアクセスするためには、場所によってはアンダーパスとなっている道路を通して避難する必要があります。

※アンダーパスとは

交差する鉄道等の下を通過するため、周辺より低くなっている道路

第1章

第2章

玉名市の
現状から
みた課題

第3章

第4章

第5章

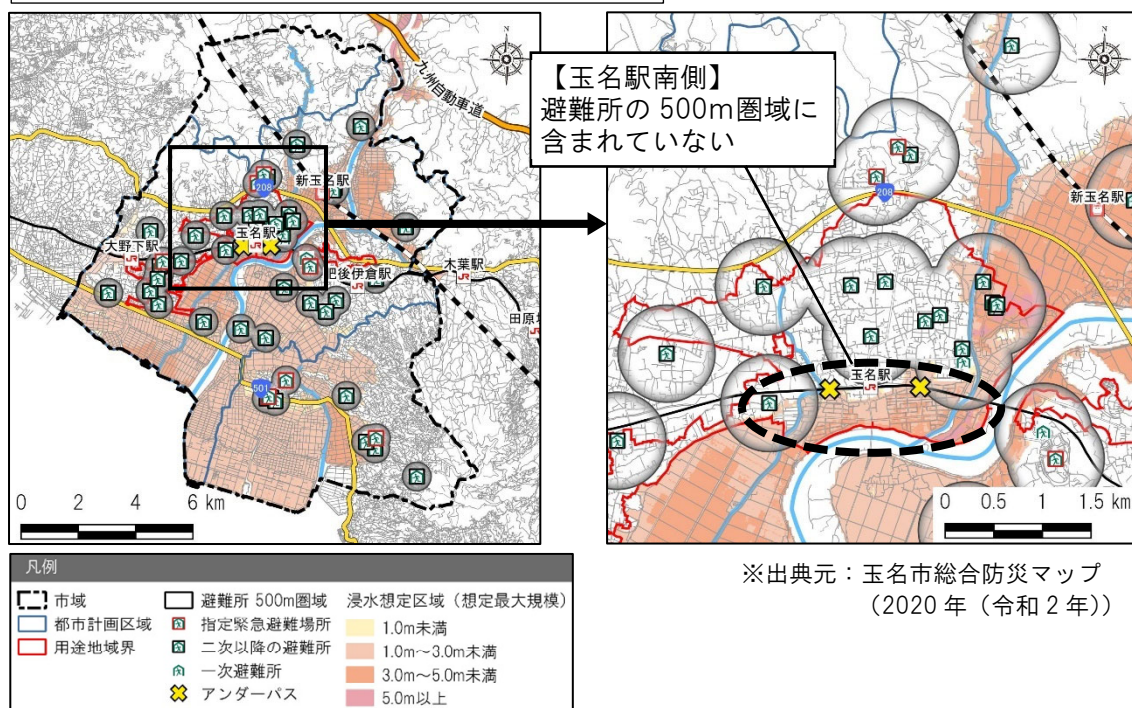
第6章

第7章

第8章

参考資料

避難所の状況と浸水想定区域（想定最大規模）



災害に対する安全性から見た課題点

【災害に対する安全性の高いエリアへの人口誘導が必要】

将来的に大雨などの災害が発生した際においても人的被害が発生しないような取り組みが必要となります。また、新規に居住地を選ぶ際には、浸水リスクの高い箇所を回避することが必要となります。

【避難所整備や防災情報の周知による円滑に避難できる環境整備が必要】

浸水による被害が指摘されているエリアに既に居住している住民に対しては、災害が発生した際には円滑に避難ができ、人的被害が発生しないような環境を整備する必要があります。

そのためには、避難所整備や避難所についての周知を図るほか、早期に避難を促すための体制、平常時から避難行動について考えてもらう機会を作ることによって、災害が発生しても円滑に避難ができる環境づくりが必要となります。

4. 交通利便性の状況

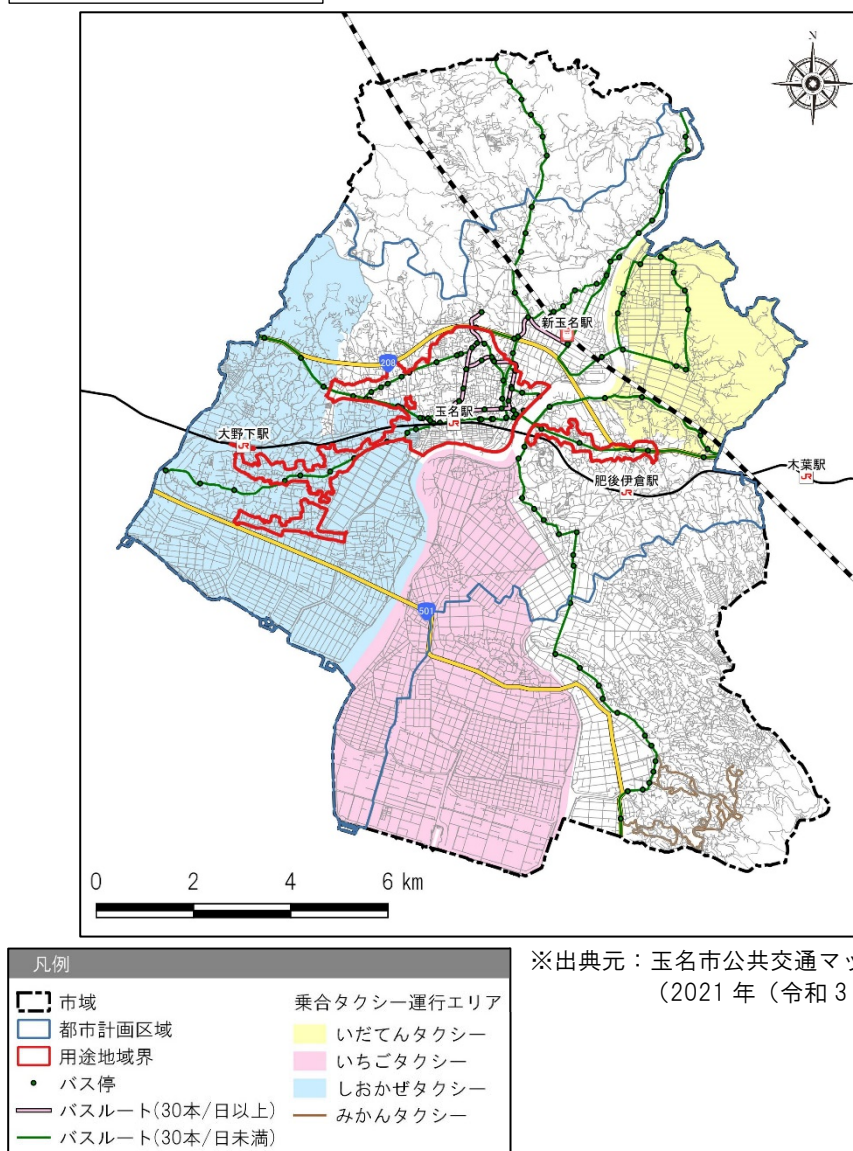
(1) 市内の公共交通の状況

市内の基幹的公共交通（片道 30 本以上/日運行している鉄道・バス路線）の状況を見ると、鉄道は鹿児島本線と九州新幹線が整備されており、鹿児島本線が 3 駅、九州新幹線が 1 駅立地しています。

バス路線については玉名駅を起終点に多くのバス路線が運行しており、玉名駅と新玉名駅を結ぶバス路線の一部区間が基幹的公共交通に該当しています。

そのほか、市内各所を路線バスが運行していますが、路線バスの運行本数が比較的不い地区とまちなかを結ぶ交通手段としての乗合タクシーを、玉名市が運行しています。

公共交通の運行状況



※出典元：玉名市公共交通マップ
(2021 年 (令和 3 年))

(2) 利用者数、補助額の推移

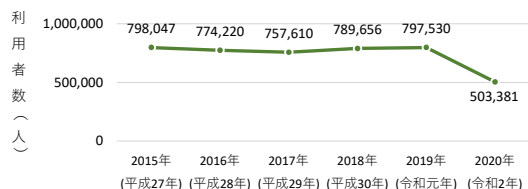
市内を運行する路線バスの利用者数推移をみると、2015年（平成27年）から2019年（令和元年）までにかけてはおおむね増加傾向にあります。

2015年（平成27年）から2019年（令和元年）にかけての乗合タクシーの利用者数推移をみると、しおかぜタクシーは増加傾向にあるものの、いちごタクシーとみかんタクシーは減少傾向にあります。

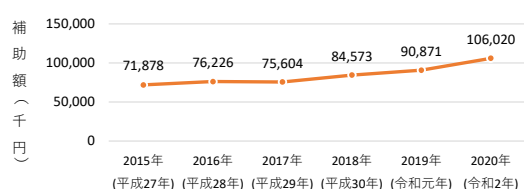
2020年（令和2年）時点では路線バス、乗合タクシーいずれも利用者が減少していますが、新型コロナウイルスの流行により不要不急の外出自粛が呼びかけられたことが影響していると考えられます。

運行に伴う補助額の推移については、路線バス、乗合タクシーいずれも増加傾向にあります。

路線バスの利用者数推移

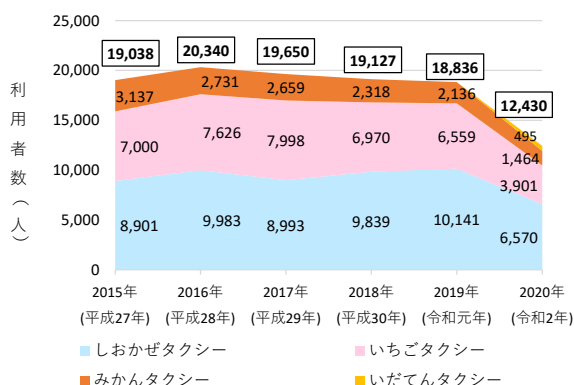


路線バスの補助額推移

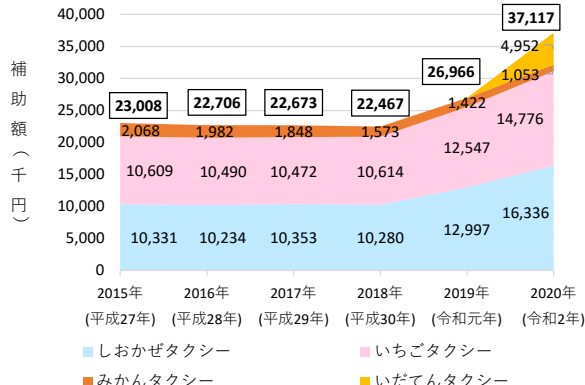


※出典元：玉名市資料
（調査年の前年10月から当年9月までを対象に算出）

乗合タクシーの利用者数推移



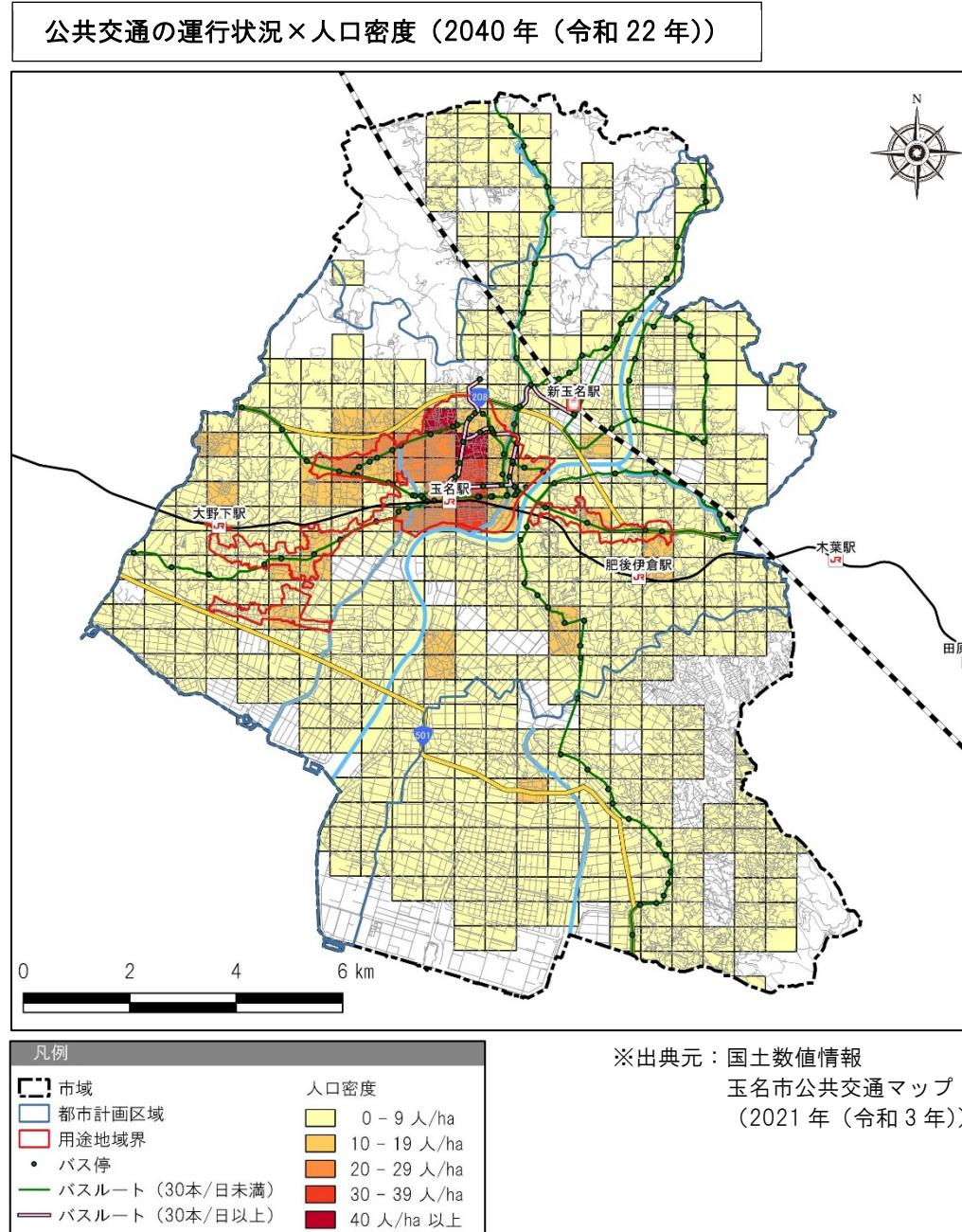
乗合タクシーの補助額推移



※出典元：玉名市資料

(3) 将来推計人口との比較

2040年（令和22年）時点の500mメッシュ単位での人口密度をみると、公共交通の結節点にあたるエリアでは、玉名駅以外の区域では0-19人/haの区域が広がっています。

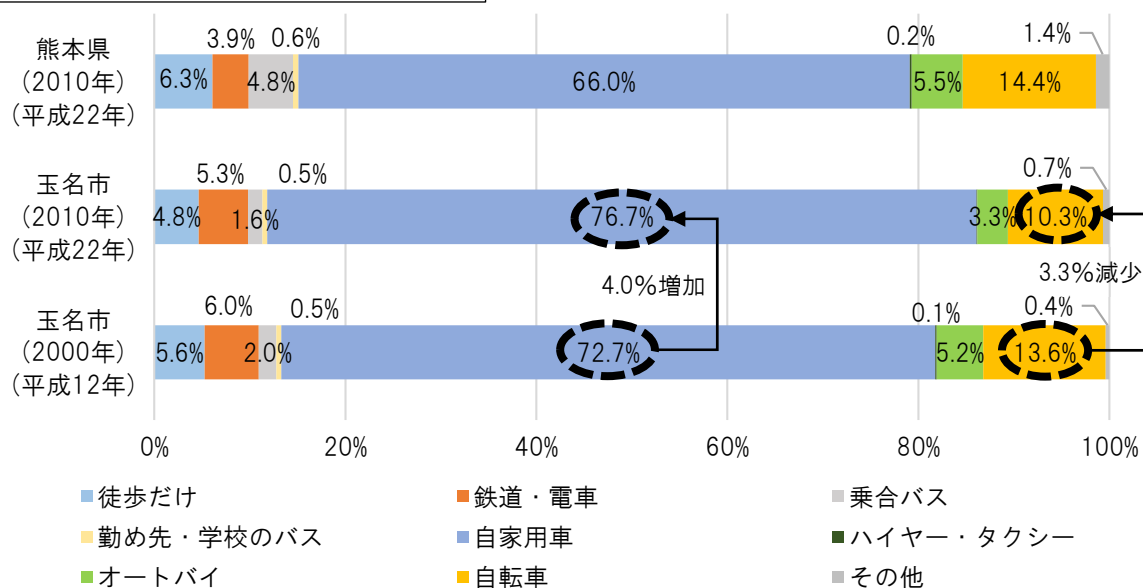


(4) 公共交通の利用割合の状況

玉名市の交通分担率をみると 2000 年（平成 12 年）から 2010 年（平成 22 年）の 10 年間で自家用車を利用する割合が 4.0%増加し、自転車を利用する割合が 3.3%減少しています。

熊本県全体の交通分担率と比較すると、玉名市はバス利用と自転車利用の割合が少なく、自家用車利用の割合が高くなっています。

玉名市・熊本県の交通分担率の状況



公共交通の動向から見た課題点

【高齢者等自家用車を運転しない人の移動手段確保が必要】

玉名市の交通分担率を見ると、鉄道やバスなど公共交通を利用している人の割合は減少している状況ですが、将来的にも市街地を中心に人口が減少するため、公共交通の利用者はさらに減少する可能性があります。

公共交通は自家用車の運転ができない人の重要な移動手段ですが、将来的に高齢化が進行することで、自家用車の運転や送迎による移動ができない人はさらに増加するものと考えられます。

自家用車の運転等ができない人の移動手段を確保することによって、これらの人も安心して生活することができる環境づくりが必要です。

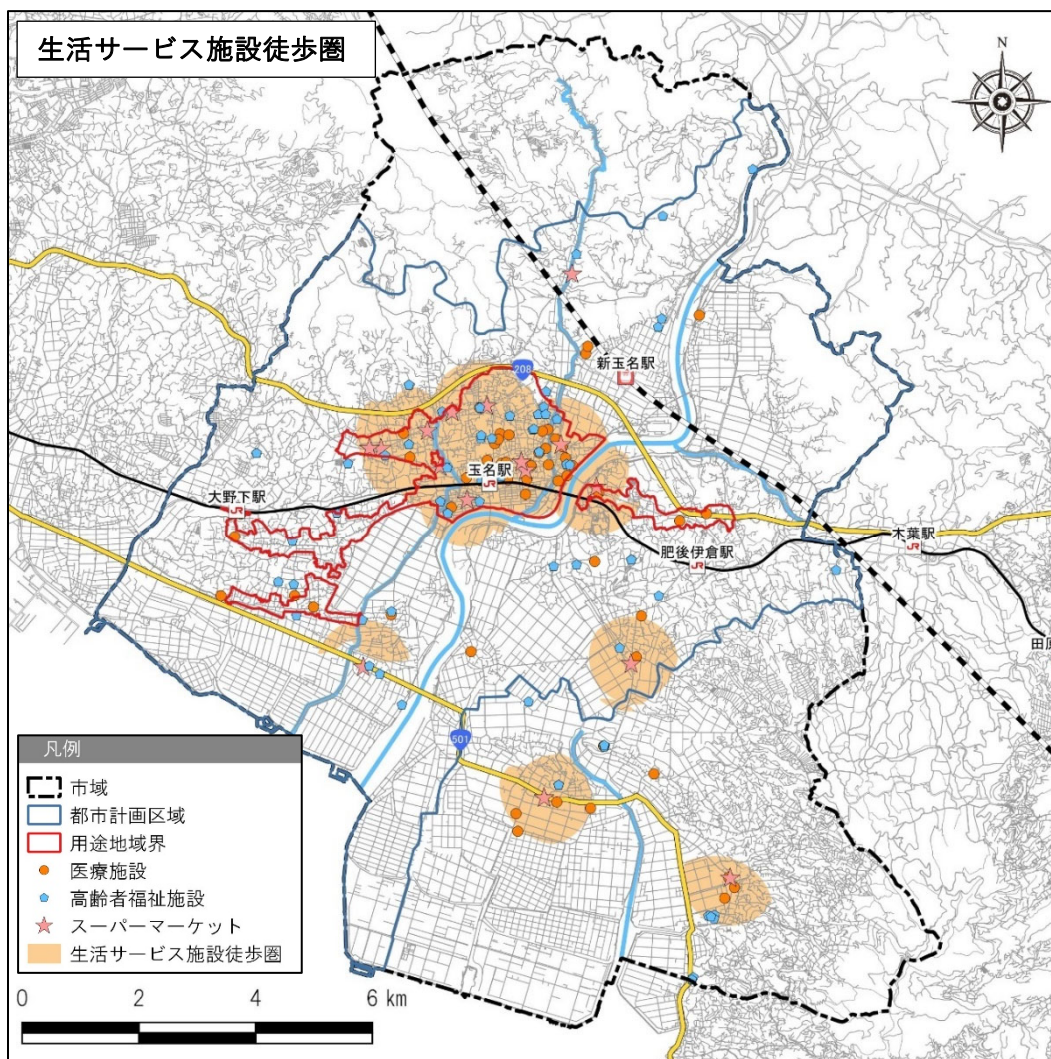
5. 都市機能利便性の状況

(1) 生活サービス施設徒歩圏の状況

住民の日常的な生活利便性の高い地域を示す指標として、「生活サービス施設徒歩圏」の状況を整理します。

生活サービス施設徒歩圏とは、医療施設（診療科目に「内科」「外科」「小児科」のいずれかを含む施設）、高齢者福祉施設、商業施設（スーパーマーケット）これらの利用圏域（高齢者福祉施設は1,000m（地域包括ケアシステムの日常生活圏域）、その他施設は800m（都市構造の評価に関するハンドブックに記載されている一般的な徒歩圏））に含まれている箇所となります。

玉名市における生活サービス施設徒歩圏の状況を見た場合、玉名駅周辺の用途地域は概ね該当している状況です。



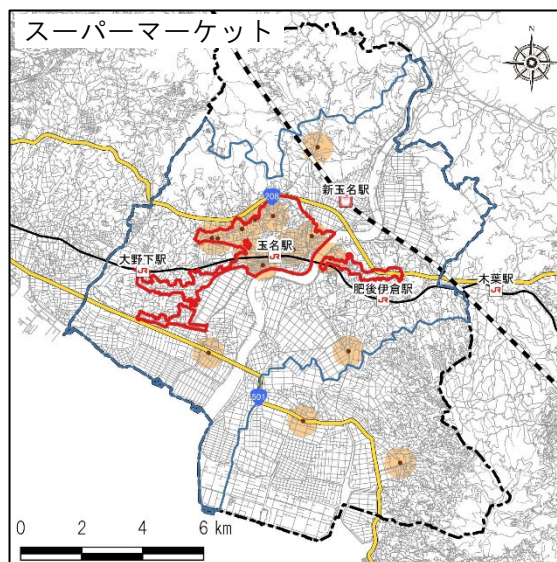
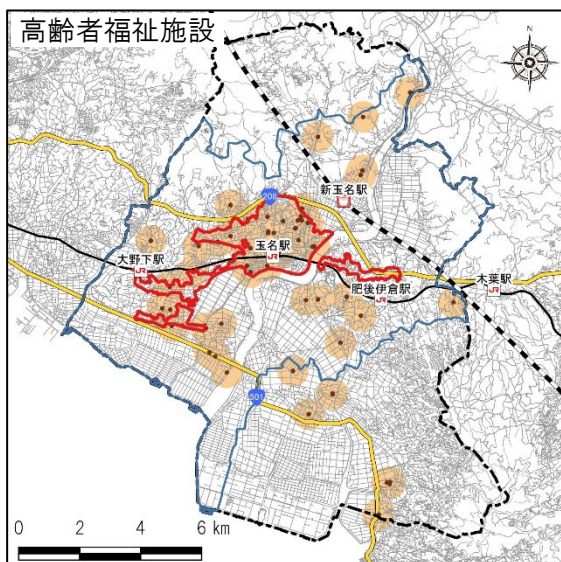
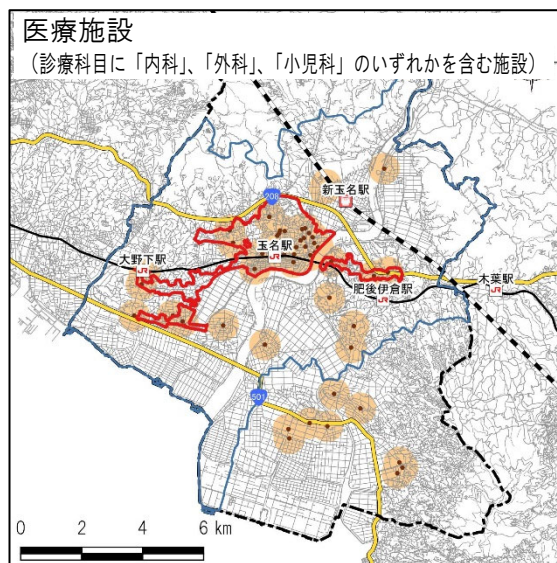
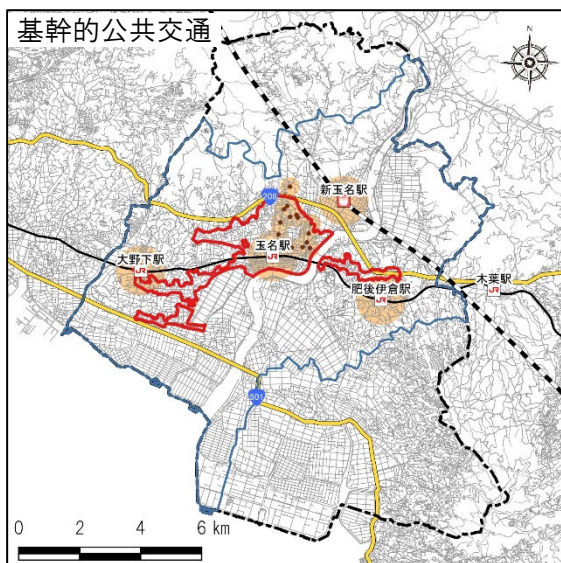
※出典元：各種公表資料をもとに整理（2019年（令和元年）10月時点）

(2) 都市機能の集積状況

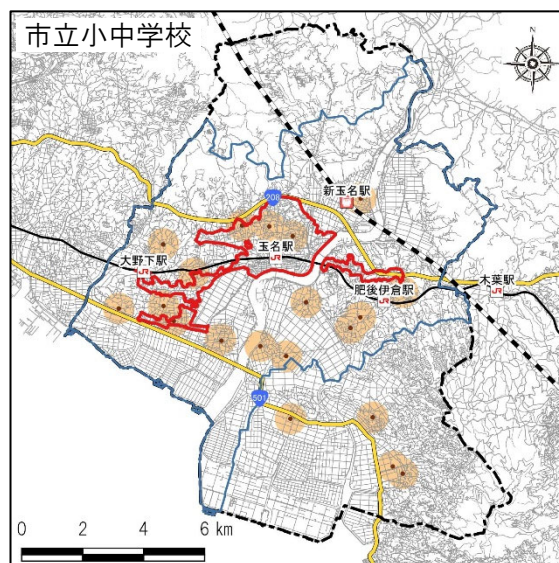
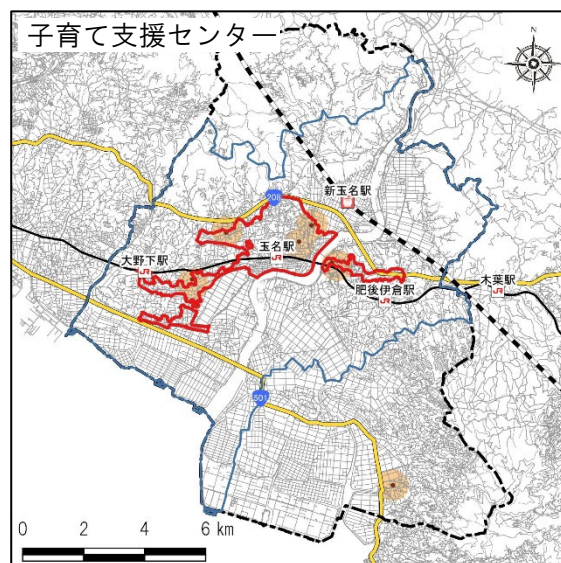
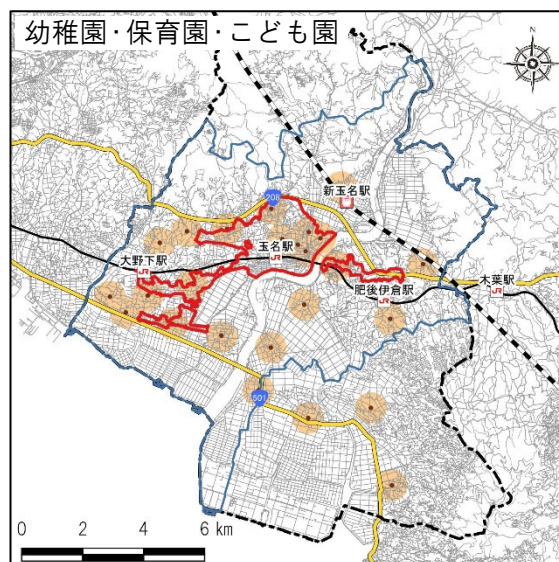
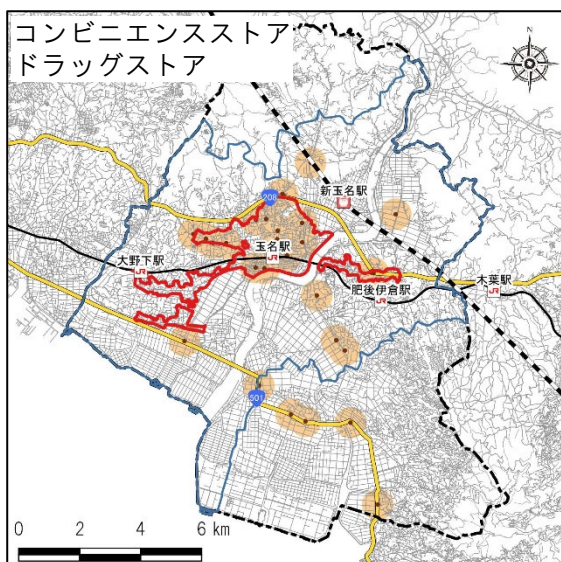
都市機能の集積状況を把握するために、100m メッシュ単位での都市機能集積状況図を作成しました。

内容としては、都市機能利便性に寄与する以下の施設を対象に、利用圏域に含まれる箇所に 1 点ずつ加点しており、点数が高いほど多数の都市機能が立地し利便性が高いことを表しています。

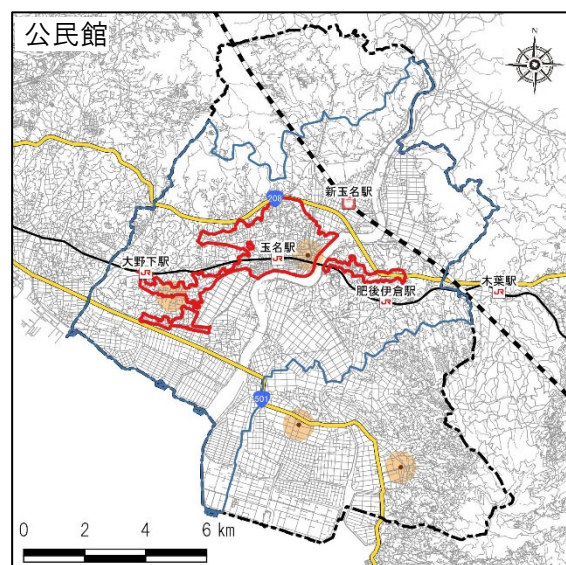
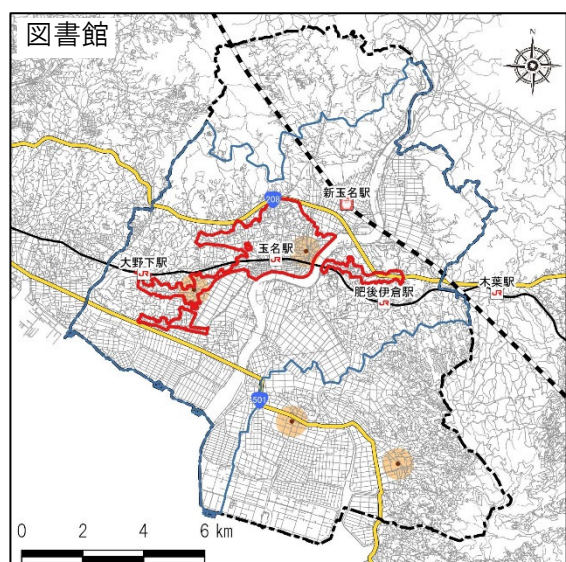
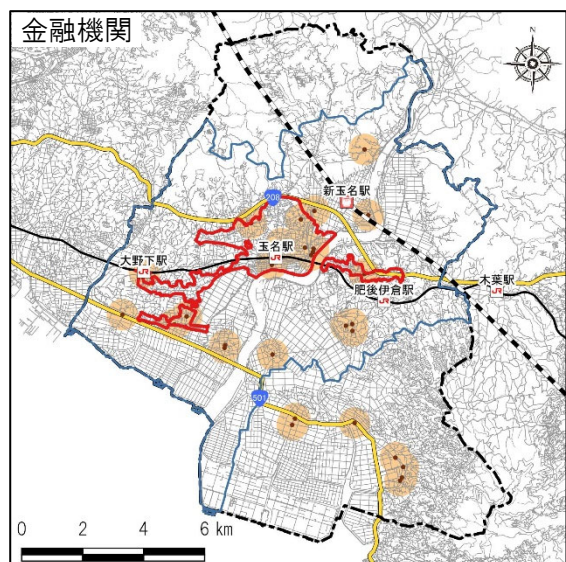
※利用圏域は 500m（鉄道駅は 800m、バス停は 300m）とします。



※出典元：各種公表資料をもとに整理（2019 年（令和元年）10 月時点）

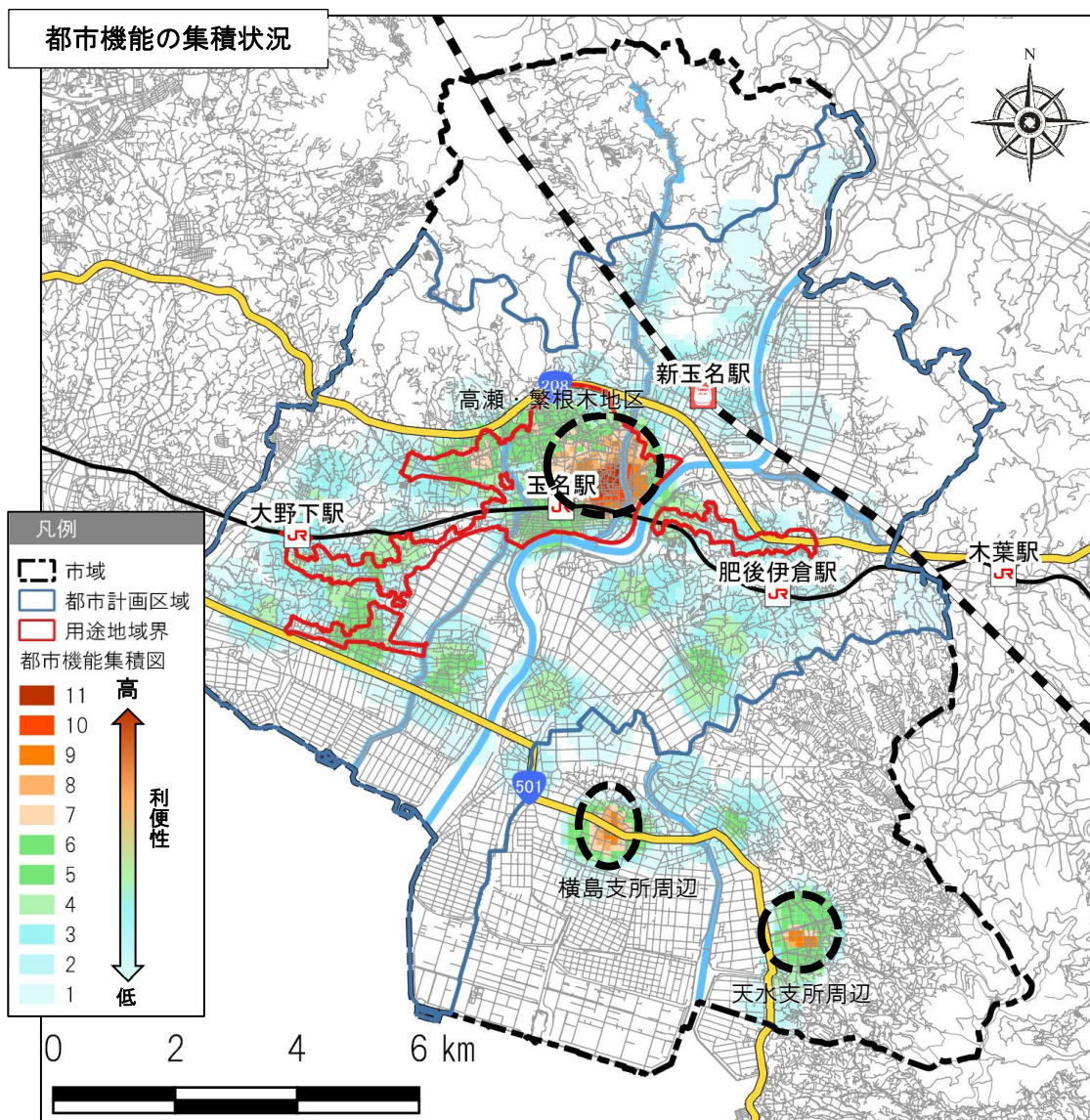


※出典元：各種公表資料をもとに整理（2019年（令和元年）10月時点）



※出典元：各種公表資料をもとに整理（2019 年（令和元年）10 月時点）

点数が特に高いエリアとしては、高瀬・繁根木地区、横島支所周辺、天水支所周辺が挙げられます。



※出典元：各種公表資料をもとに整理（2019年（令和元年）10月時点）

都市機能の利便性から見た課題点

【都市機能利便性の高いエリアへの人口集積による機能維持・向上が必要】

玉名駅周辺のまちなかや市域の南側などに、都市機能の集積が高いにもかかわらず、空き家動向が著しい区域も見られます。都市機能が高い区域において人口が減少すると、商業施設や病院などの閉業により利便性が低下することが考えられます。

玉名駅周辺のまちなかは都市計画マスタープランで中心拠点及び交通拠点に位置づけられており、まちなかの利便性低下は市全体の魅力低下につながるため、人口集積を図ることで都市機能利便性の維持・向上が必要となります。

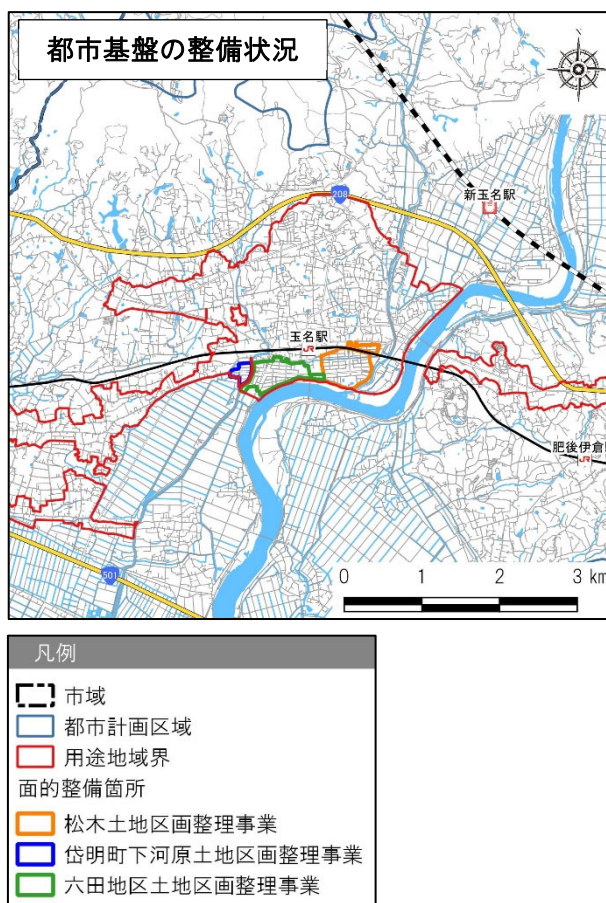
6. 都市基盤の整備状況

(1) 市街地開発事業の実施地区

市内では3つの地区で土地区画整理事業が行われており、いずれも玉名駅の南側に位置しています。

松木土地区画整理事業は1989年（平成元年）に完工、六田地区土地区画整理事業は1993年（平成5年）に完工、岱明町下河原土地区画整理事業は2009年（平成21年）に完工しています。

3つの土地区画整理事業についてはいずれも宅地供給を目的としており、良好な住環境が形成されています。

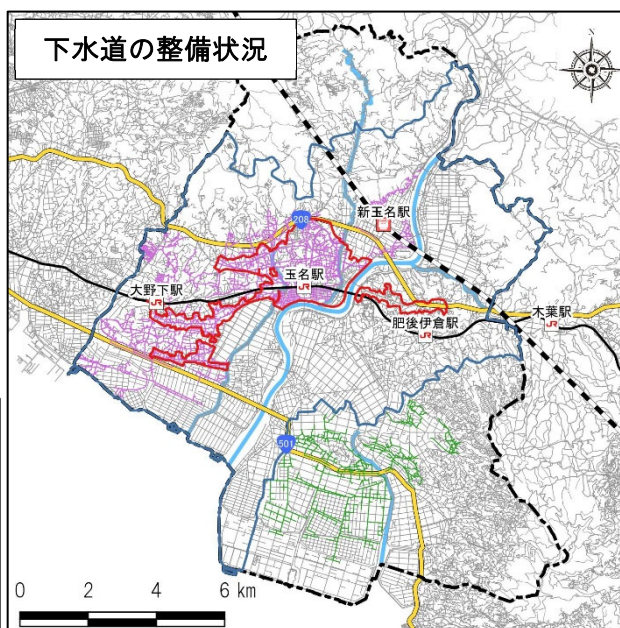
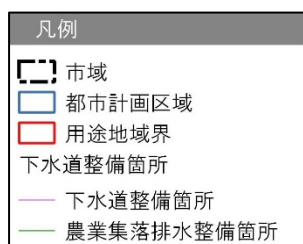


※出典元：玉名市資料

(2) 下水道の整備状況

市内の下水道整備状況を見ると、菊池川より西側の用途地域においてはほぼ全域で下水道が整備されています。

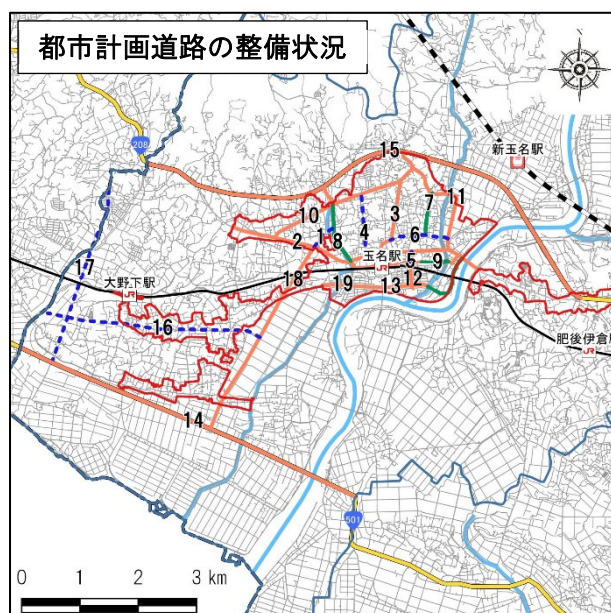
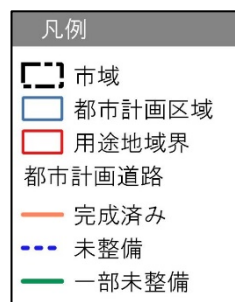
その他横島地区、天水地区で集落が形成されている箇所においては概ね農業集落排水が整備されている状況です。



※出典元：玉名市資料（2021年（令和3年）3月時点）

(3) 都市計画道路の整備状況

市内の都市計画道路は19路線あり、そのうち9路線が整備済み、6路線が未整備、4路線が一部未整備となっています。



※出典元：玉名市資料（2021年（令和3年）3月時点）

※路線番号については次頁の表を参照

【市内の都市計画道路】

番号	都市施設名称	計画延長 (k m)	幅員 (m)	整備状況 (k m)			整備率(%)
				改良済	概成済	未整備	
1	3.4.1 築地中線	0.50	20	0.00	0.00	0.50	0.0%
2	3.4.2 築地大倉線	4.37	16	2.86	1.51	0.00	100.0%
3	3.4.3 玉名駅立願寺線	2.17	16	2.17	0.00	0.00	100.0%
4	3.4.4 寺畑山田線	1.05	16	0.00	0.00	1.05	0.0%
5	3.5.5 前田東線	0.20	12	0.00	0.00	0.20	0.0%
6	3.5.6 後田横町線	0.96	12	0.00	0.00	0.96	0.0%
7	3.5.7 立願寺南岩原線	1.29	12	0.56	0.00	0.73	43.4%
8	3.5.8 玉名駅平嶋線	1.96	12	0.95	0.00	1.01	48.5%
9	3.5.9 玉名駅下町線	1.27	12	1.16	0.00	0.11	91.3%
10	3.4.10 築地立願寺線	2.39	16	2.39	0.00	0.00	100.0%
11	3.4.11 立願寺横町線	1.33	16	1.33	0.00	0.00	100.0%
12	3.5.12 亀甲中線	0.42	12	0.42	0.00	0.00	100.0%
13	3.4.13 高瀬大橋中線	2.52	16	1.51	0.00	1.01	59.9%
14	3.2.14 長洲玉名線	6.24	30	3.11	0.00	3.13	50.0%
15	3.3.15 玉名バイパス線	8.47	25	5.19	0.00	3.28	61.0%
16	3.4.19 長洲岱明線	3.82	16	0.00	0.00	3.82	0.0%
17	3.4.7 沖洲金山線	3.95	12	0.00	0.00	3.95	0.0%
18	3.3.16 岱明玉名線	3.75	22	2.39	0.00	1.36	63.7%
19	3.4.20 下河原尾崎線	0.33	16	0.33	0.00	0.00	100.0%
合計		46.99	—	24.37	1.51	21.11	55.08%

都市基盤の整備状況から見た課題点

【人口誘導を図るべきエリアへの都市基盤整備が必要】

玉名駅周辺においても都市計画道路が未整備となっている箇所があります。
玉名駅周辺などにぎわいを創出すべきエリアにおいては、多くの人々が利用しやすいような都市基盤の整備を行う必要があります。

【都市基盤の整備されたエリアへの人口誘導が必要】

市街地縁辺部などの宅地開発が進行し、無秩序な市街地の拡大が進んだ場合、新たな道路や上下水道の整備が必要となり、住民一人当たりの行政コストが増大する可能性があります。

住民一人当たりの行政コストを抑制するためには、既に道路や下水道が整備され、生活利便性が高いエリアに居住を誘導する必要があります。

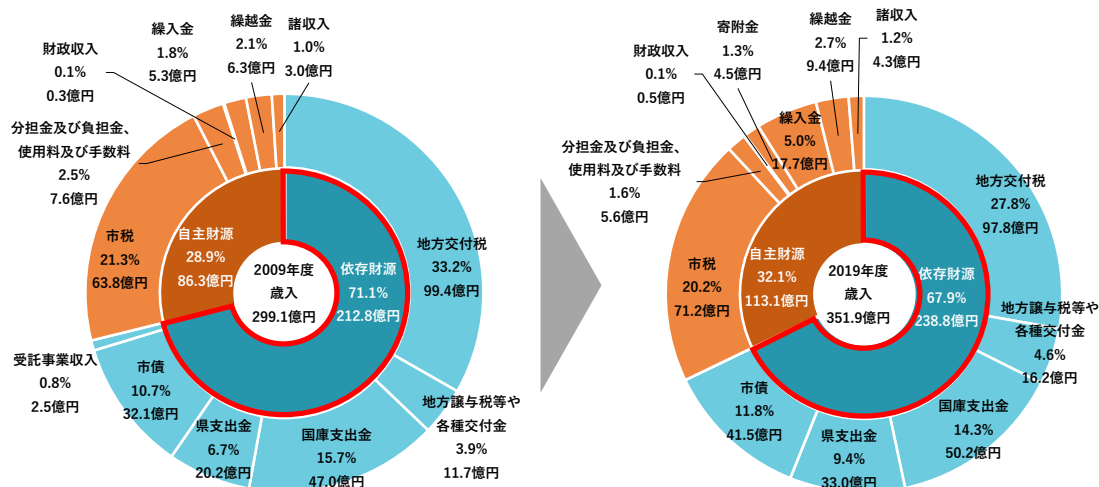
7. 財政の状況

(1) 歳入の状況

歳入額について、2009年度（平成21年度）は299.1億円でしたが、2019年度（令和元年度）には52.8億円増加し、351.9億円となっています。

2009年度（平成21年度）と2019年度（令和元年度）の玉名市の歳入の内訳をみると、依存財源が212.8億円から238.8億円と26.0億円増加しています。

【2009年度（平成21年度）・2019年度（令和元年度）一般会計歳



依存財源の推移：71.1%（212.8億円）⇒67.9%（238.8億円）
（26.0億円増加）

※出典元：玉名市資料

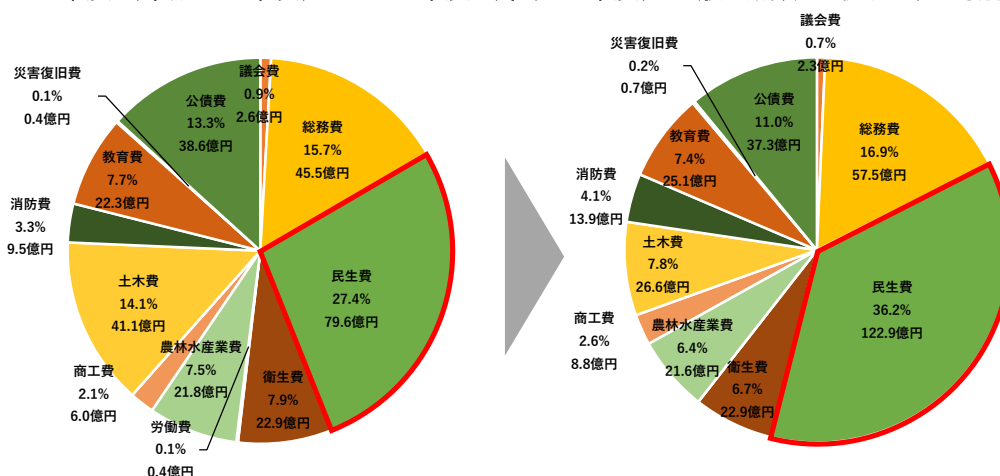
(2) 歳出の状況

歳出額について、2009年度（平成21年度）は290.7億円でしたが、2019年度（令和元年度）時点では48.9億円増加し、339.6億円となっています。

目的別歳出の状況を見ると、高齢者福祉等に係る民生費が2009年度（平成21年度）時点では79.6億円、2019年度（令和元年度）時点では122.9億円となっており、10年間で43.3億円増加しています。

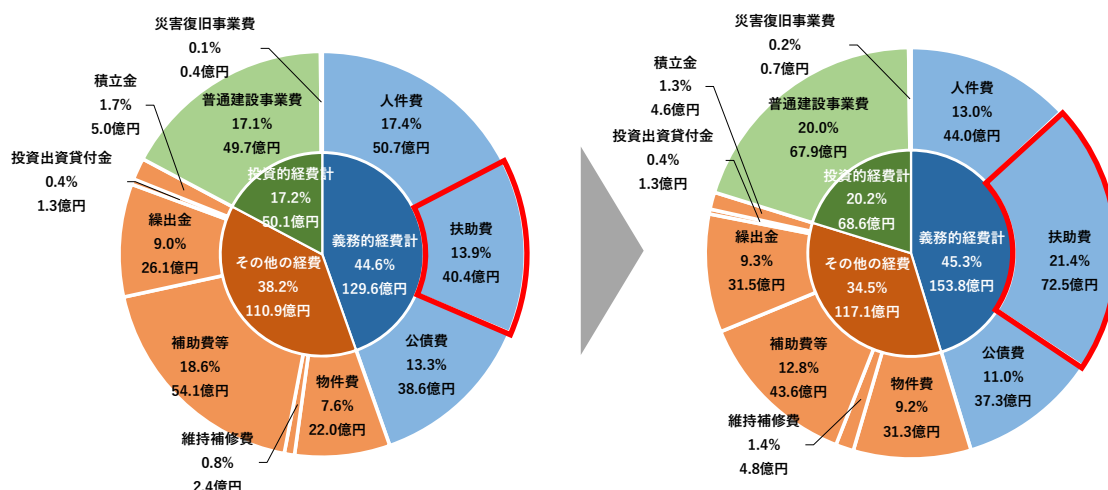
性質別歳出の状況を見ると、高齢者福祉等に係る扶助費が2009年度（平成21年度）時点では40.4億円、2019年度（令和元年度）時点では72.5億円と32.1億円増加しています。

【2009 年度（平成 21 年度）・2019 年度（令和元年度）一般会計歳出状況（目的別）】



民生費の推移：27.4%（79.6 億円）⇒36.2%（122.9 億円）
（43.3 億円増加）

【2009 年度（平成 21 年度）・2019 年度（令和元年度）一般会計歳出状況（性質別）】



扶助費の推移：13.9%（40.4 億円）⇒21.4%（72.5 億円）
（32.1 億円増加）

※出典元：玉名市資料

財政状況から見た課題点

【まちなかに出かけたくなる、歩きたくなるようなまちづくりが必要】

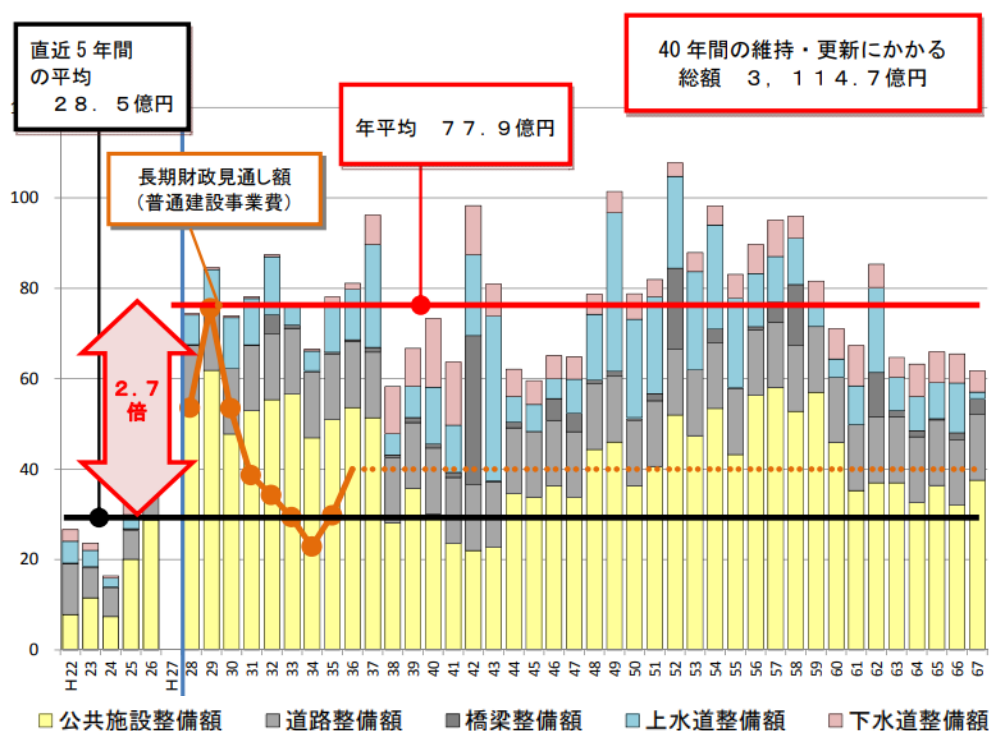
玉名市の歳出状況をみると高齢者福祉に係る扶助費等が増加しており将来的に老年人口が増加することから、高齢者福祉に係る出費も増加すると考えられます。

これらの出費を抑制するためには、まちなかへの都市機能集積を図るほか、歩きたくなる都市空間や人が集まる交流の場の形成などによって、高齢者が出かけたくなる仕組みを作り、健康維持を目指す必要があります。

(3) 公共施設及びインフラ資産の将来的な更新費用

玉名市所有の公共施設（市役所、公民館等の建物）とインフラ資産（道路、橋梁、上・下水道）を今後もこれまでと同じペースで更新するものと仮定した際の試算結果をみると、2016年（平成28年）から40年間の維持・更新費に係る総額は3,114.7億円（年平均77.9億円）となる見込みです。2010年（平成22年）から2015年（平成27年）の5年間総額143億円（年平均28.5億円）と比較すると2.7倍であり、今後人口減少や少子高齢化により、さらに厳しい財政状況が予測されます。

公共施設やインフラ資産の維持・更新コストを抑制するためには、公共施設の集約化や公共施設等の再編、適切な居住誘導を図ることにより、公共施設等の維持・更新コストを増大させないほか、計画的な施設の整備スケジュールを立てることによって、公共施設の維持・更新コスト平準化に向けた取り組みが求められます。



※出典元：玉名市公共施設等総合管理計画（2016年（平成28年））

財政状況から見た課題点

【適正な居住のコントロールにより、一人当たりの行政負担軽減が必要】

公共施設・インフラ等の維持・更新に係る費用は将来的にも一定数見込まれる一方で、納税者となる生産年齢人口は減少する見込みであり、市民一人当たりの行政負担は増大するものと予測されます。

市民一人当たりの行政負担を軽減するために、市街地への適正な居住のコントロールや公共施設の集約化も併せて行い、コスト削減を図ることで公共施設やインフラの整備に係る費用を低減させる必要があります。

8. 他都市と比較した玉名市の状況

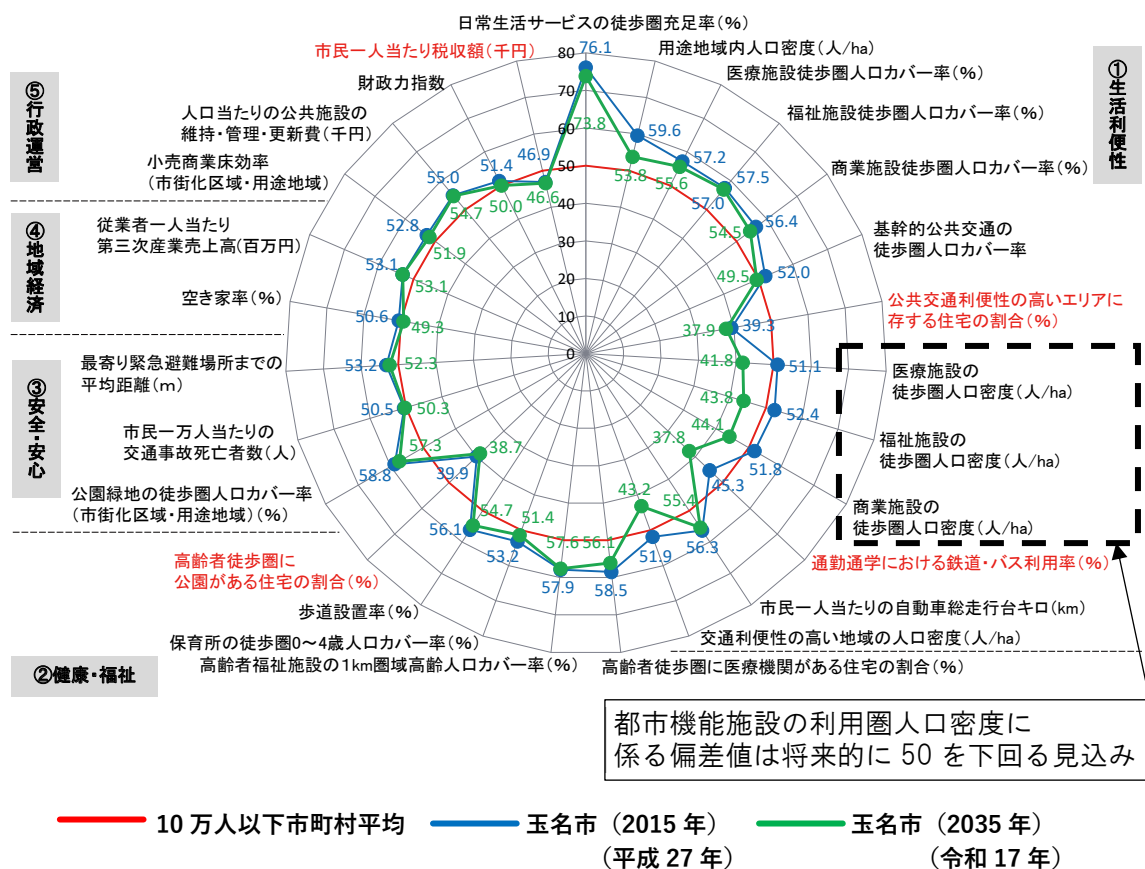
玉名市の都市構造を全国と同規模他都市（人口 10 万人以下）と比較し、玉名市の強みとなる部分、弱みとなる部分を整理します。

同規模他都市と比較した偏差値レーダーチャートを見ると、「日常生活サービス圏の徒歩圏充足率」などといった人口カバー率に関わる指標については比較的偏差値が高い一方で、「医療施設の徒歩圏人口密度」などといった人口密度に関わる指標については偏差値が 50 前後で推移していることから、玉名市は都市機能施設が立地しているものの都市機能が集積している箇所に人口が集積していないことがわかります。

将来的にこれらの偏差値は 50 を下回ることが見込まれていることから、商圏人口の減少によって施設の閉鎖・撤退につながり、同規模都市と比較しても利便性の低い都市構造となることが懸念されます。

そのため、都市機能の集積を図るべき箇所に人口集積を誘導することによって、既に立地している都市機能を維持するとともに、玉名市全体としての利便性向上が望まれます。

同規模他都市との比較による偏差値レーダーチャート



※出典元：国土交通省「都市モニタリングシート」